

---

Who are you?

井沢あや

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

Who are you?

### 【Zコード】

N3424A

### 【作者名】

井沢あや

### 【あらすじ】

中年的、小さな悩みの物語。短めです。若いあなたも是非どうぞ。

甘い季節の感傷に浸るつもりはないが、私は浮足だつていた。何か特別いい事があった訳でもなく、いつも通りの一日前なのに。

今日はやたらとゴキゲンで、小さな幸せに心が安らぐのだ。こんな日つて、ありませんか？

大嫌いなインテリの上司にも、最上級の笑顔で挨拶することができた。

薔薇色の人生とは、こんな風に毎日が幸せな事なんじゃないか、なんて。私は終始笑顔だ。私の心中が、極めて穏やかで幸せである事など知るよしもない人々にとつては、いくらか奇妙に見えるかもしない。

「小林さん、お電話です」

小林とは、私の名前だ。下の名前は一郎、もちろん長男だ。冴えないけれど、私にはピッタリで、それが昔はどうしようもなく嫌だつた。

電話をまわして貰うと、私は凄く丁寧に電話をとつた。

『小林さん、先日お世話になりました。畠山です。どうも～』

受話器からは、気さくな感じのする男性の声が流れてくる。私は一瞬、幸せの笑みを消し、はたと考え込んだ。

「ああ…どうも～、いらっしゃりをお世話になりました。はい、いえいえ！」

本当は、畠山さんが一体何処の誰なのか、私は微塵も思い出せずにいた。なんとか話を合わせながら、私は記憶のなかを右往左往した。

こぐら探しても、“畠山さん”というキーワードは、私の古いコンピュータにはインプットされていない様に思つた。

畠山さんは全く気付かずには話を進める。

『先日お話したアレ、考えていただけました？そろそろ進めましょ

うよ～』

アレとは何か……？彼の言葉にイヤミの類は感じない。そこそこに面くっている取引先の方か？　社か、はたまた　社か……。可能性は無限にあるように思える。いきなりの大ピンチだ。

「いやあ～、それがなかなか……。本当に、お待たせしてしまつて恐縮です」

出来るだけ後々困らないような返事を返すよう努力する。なかなか難しい作業だ。頭の中のポンコツは、今にもフリーズしてしまいそうだった。

そもそも彼をキチンと覚えておけない時点で、私のソレはかなりガタがきているのだな。いつの日にかすっかり壊れてしまうのだろうか。考えると少し悲しくなった。

『いえいえ。大プロジェクトですからね。慎重にもなりますよ。何だか急かしてしまったみたいになつて、申し訳ないです』

大プロジェクト？　思い当たる事と言えば、一つだけだ。私はその時の光景を、出来る限り鮮明に思い出そうと試みた。

絞りこんで検索しても、やはり畠山さんは見付からなかつた。答えはすぐそこに在るのに……。

喉の辺りまで出てきている言葉が言えない時のような、歯の隙間に挟まつた物が取れない時のよつな、くしゃみが出そつで出ない時のような、そんな不快感が延々と続く。

私は打つて変わつて悶々としていた。

『いやあ～、正直覚えて頂けているか不安だったんですよ。私は余りお話出来ませんでしたから。すぐに思い出して貰えて良かつたです』

今更？もつと早く言つてくれれば……いや、私が早い内に打ち明けていれば良かつたんだ。あなたの事を実は覚えていないんです、と。お会いしたのはいつですか、と。

時、既に遅し。

後悔先に立たず。

「そんなことありませんって」

私は空いている方の手で、財布にねじこんであつた名刺の束を探つた。畠山さんの物はない。しかし、絶対に貰つていい筈なのだ。ステッジの内ポケットか、鞄の中か、家に置いてきた名刺入れの中か……。とても今すぐには見付かりそうにない。

せつかくのいい気分が台無しだ、と私は思つ。薔薇色は長くは続かないらしい。

一通り話を弾ませた後、また連絡します、と畠山さんは話を締め括つた。私は、少し大袈裟かもしれないが、足がつかなかつた事に安堵した。私の額にはそれこそ犯人のように冷や汗が噴き出していたのだから。

受話器を置き、私はもう一度考える。一つだけ分かつたことは、畠山さんが気さくな人だという事くらいだ。

私は、今の電話と私のパソコン・ピュータに怒りを感じ、家に帰つてくつろぐべき時間の大半を、畠山さん探しに費やすであろう現状に憤りを感じながら、一日を悶々と過げゝはめになつたのである。

私は終始、しかめつづらだ。

Who are you?

あなたは誰？

Who are you.....?

あなたは、一体誰ですか.....?

(後書き)

紐解けば只の老化現象なんですけどね。ショボいオチですみません。この話は、忘れっぽくなってきた両親を見て考えました。私もいつかあるのかな、なんて。少しでも共感して下さる読者様がいれば、作者冥利につきますよ。最後まで読んでください、ありがとうございました！

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n3424a/>

---

Who are you?

2011年1月19日07時46分発行